

◆今回は評価（アンケート）の実施時期について例年より遅い3月上旬とさせていただきました。前期評価との兼ね合いを踏まえた設定でしたが、結果として集計・報告が大変遅くなりまして申し訳ございませんでした。

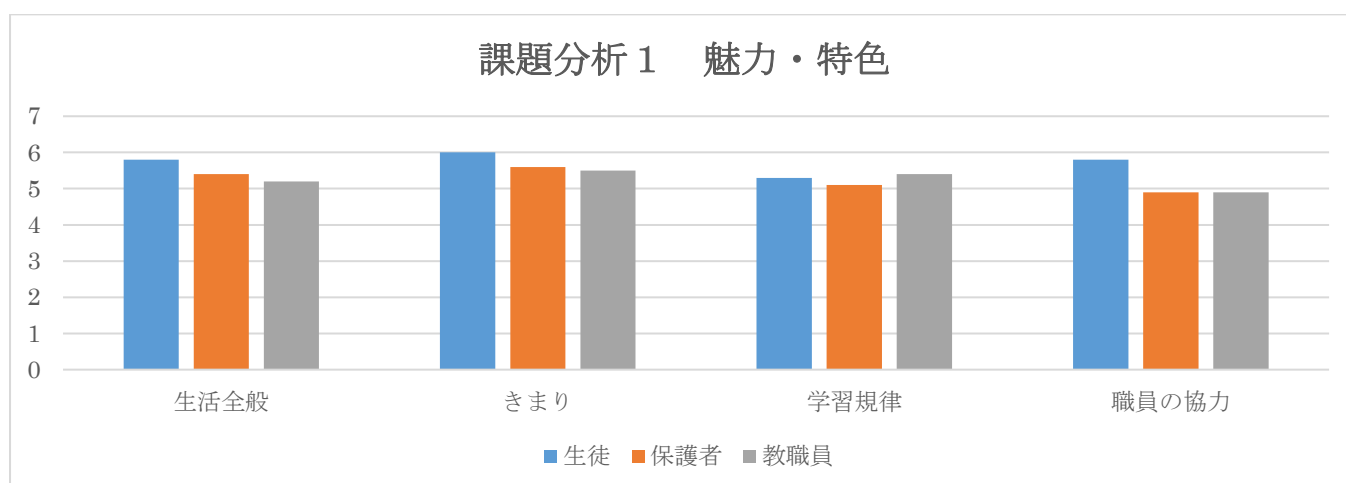
◆評価数値の出し方

＊実現度について「出来ている」「大体出来ている」「あまり出来ていない」「出来ていない」の選択肢から回答いただきました。それぞれの選択肢を7・5・3・1点として、人数で割ったものがここに示す数値です。最高値は7です。

＊評価が5を超えている項目については、多くの方が「大体出来ている」と判断されていることになります。

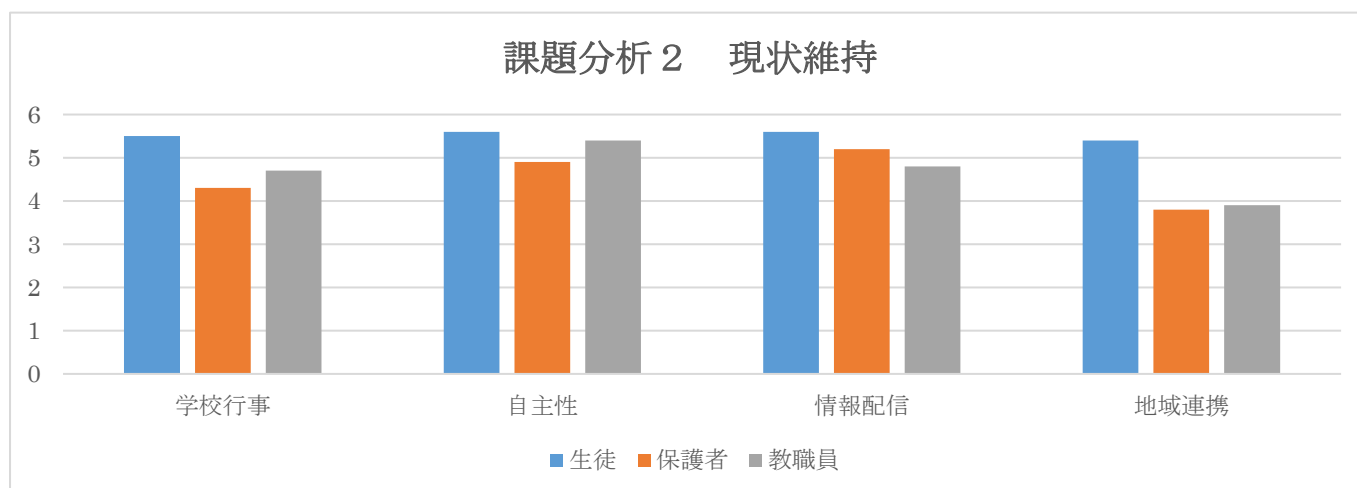
◆生徒が「出来ていない」としたのは1項目でした。多くの制約の下で前向きに取り組む姿勢やがんばりが自己評価に反映されていると見ています。しかし、保護者の皆様の評価は前期よりも厳しく、美化、地域連携についての評価が下がるとともに、授業改善に対する評価も下降しています。今年度のコロナ禍における対応の中で、不安や疑問があまりの保護者様が多いと考えられます。そのような中で、後期に生徒たちの成長、取組の成果を保護者の皆様と共有する場（発表会や授業の参観等）を設定することができなかったことも大きいと考えます。

◆回収率 生徒 91% 保護者 78% 教職員 100%



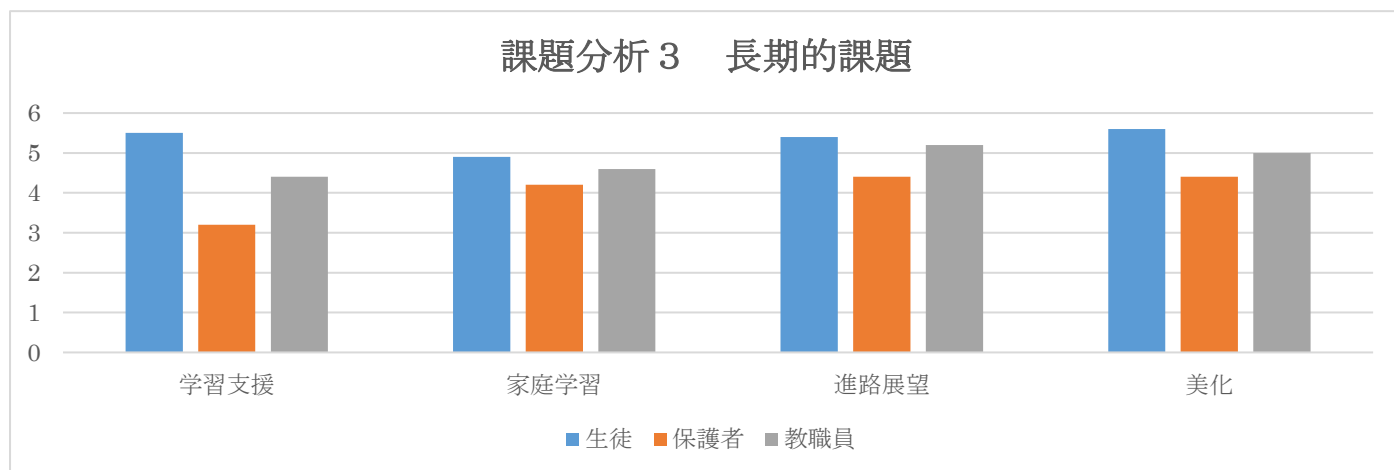
◇前期に引き続き、学校の魅力・特色についてはおおむね三者の実現度はほぼ近いところにある。

生徒・保護者の声としては、体育大会・修学旅行以降に成果の実感・共有の場としての行事等を設けられなかったことによって「実現度」の実感は低下しているとみられる。



◇今年度の大幅な学校行事削減により、保護者・教職員の満足度・実現度が低下しているにも関わらず、生徒達のそれは後期についても引き続き高い。いずれの学年においても、制約の中で学校行事に対してひたむきに努力している姿を反映している。

地域連携について、保護者の評価は教職員よりも大きく低下した。来年度の動向も見通しにくい状況であるが、方策を探る努力が求められている。

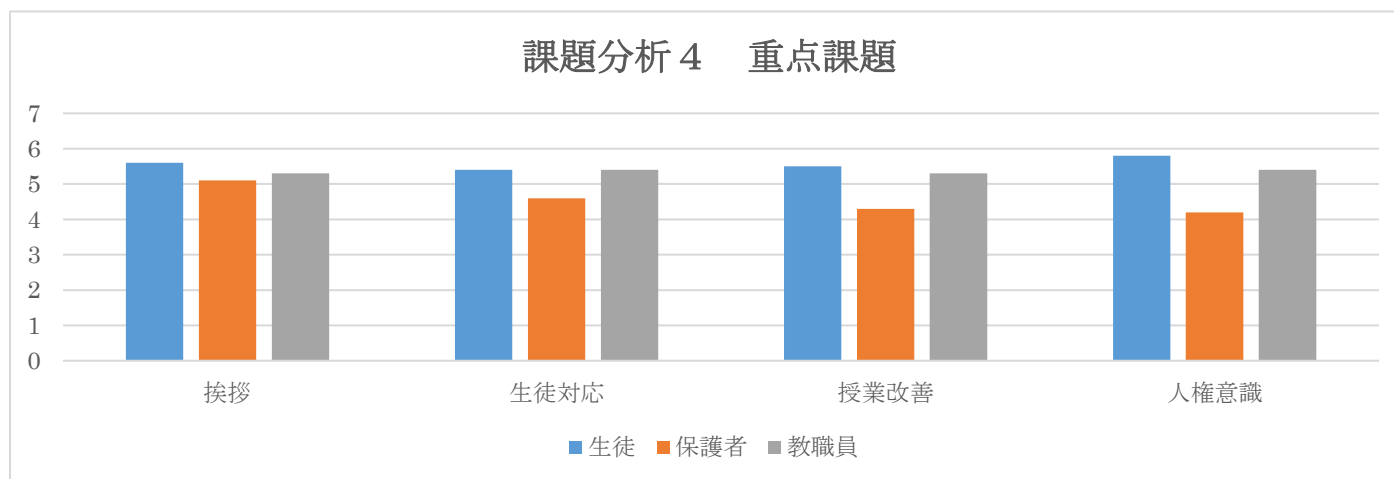


◇長期的課題としてとらえている学習支援や家庭学習についての実現度は、保護者から厳しく見られている。

家庭学習については、生徒の自己評価も引き続き低い。

放課後学習会も、定期テスト対策や苦手教科克服のために実施しているが、外部のスポーツクラブや学習塾への加入率の高さもあり、参加状況はなかなか安定しない。

学習支援策の強化は、次年度においても引き続き課題であり、すべての子ども達に行き届く体制を構築する。



◇授業改善については、本校における重点課題として教職員にも提示してきた。教職員の間では公開授業・研究授業を実施することができたが、保護者に見える形をつくることはできなかった。新学習指導要領の完全実施、GIGA スクール構想の推進のもとで、引き続き重点課題として、研鑽に努めていく。